

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立武雄小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育では、支援の「見える化」や各関係機関との連携が効果的に図れ、効果を上げることができた。 「働き方改革」については、業務削減や会議時間の短縮ができ、退勤時間も早くなってきた。職員一人一人の意識改革もでき、一気に解決はできないが、業務の効果的な推進に努力することができた。 学力向上については、ICTの効果的な活用や学習指導の工夫をさらに研修し、結果を追求する必要がある。教職員の資質向上のための手立ても課題である。 「いじめ防止対策委員会」「スマイル会議」を通して、子どもたちの安心安全を確保する取り組みを進めることができた。次年度は、さらに計画的に効果的に進めたい。

2 学校教育目標	自ら考え、正しく判断し、 やり抜く 、人間性豊かな児童の育成
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 官民一体型学校「武雄花まる学園」を活用した地域の学校づくり ～進化（郷土を誇りに思う子ども）～ 新学習指導要領に対応した教育活動の実施
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学力向上対策委員会を年に2回開催し、教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							松江 (学力向上コーディネーター)	
	○基本的学習習慣の取り組み ・授業中の学習習慣の定着 ・「家庭学習の手引き」を活用し、家庭との連携を図りながら定着と充実を図る。	○基本的な学習習慣の定着と家庭学習ができた児童の割合を90%以上にする。	・主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)の視点からの学習課題や授業改善を図る。 ・家庭学習ノートを学年に応じた指導を行い全学年で実施する。家庭との連携を図りながら全職員による指導・徹底に取り組む。								松永(学習部部長)
	○ICTを活用した教育の推進 ・電子黒板、タブレットの活用状況を向上させる。	○スマイル動画の活用率を70%以上にする。 ○タブレットを活用したドリル学習の実施率を前年比+10%にする。	・学力向上対策の重点項目の一つと位置づけ、定期的な活用状況の把握及び各種研修等を通して、教師のICT利活用意欲と技術の向上を図る。								山口将(ICT教員担当)
●心の教育	◎児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎教職員が、学校行事や日頃の生活、道徳の授業を通して、子どもの豊かな心の育成に結びつくような学習や活動の工夫に努めている。	・内容項目を確認して確実な授業の実施を行う。 ・教室の学習の足跡掲示コーナーに道徳の学習の足跡も定期的に掲示する。								溝口 (道徳教育推進教員)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ・アンケートの実施と活用 ・人権教育の充実 ・教育相談の実施と対応	○学校で安心して楽しく過ごしているという児童の意識を90%にする。	・毎週1回「気になる子」報告会を行う。 ・いじめアンケートや心のアンケートを実施して状況把握を、いじめにつながる可能性がある事業でも対応にあたる。 ・いじめ対策委員会において、具体的対応策を協議し、全職員で共通理解して指導・支援にあたる。								溝上(生徒指導主任) 大古場(人権・同和教育担当) 桑原(教育相談担当)
	○異学年活動の充実 ・縦割り班活動の充実	○わんぱく班・クラブ活動・音空教室・児童集会等において(上)学年・相手思いやり、協力することの大切さを理解し、行動しようとする児童(下)学年・相手思いやり、協力することの楽しさを伝える児童)	・出番・役割・承認のサイクルを意識した活動や場を仕組む。 ・異学年交流の場を年間計画の中に位置づけ、上)学年と下)学年が積極的に関わる活動を意識して仕組む。								穴井 (児童活動部部長)
●健康・体づくり	○特別支援教育の充実 ・保護者や専門機関との連携	○児童との関係を大切にしたい相談活動を充実する。 ・会議の報告をして、職員で共通理解を図る。 ・情報交換を行う。(立ち話、真面目な雑談)	・計画的、定期的な会議(支援会議、気になる子の報告、スマイル会議、巡回相談等)を実施し、児童の実態把握、関係機関との連携を協議し、支援体制を構築する。								永石 (特別支援部部長)
	①「望ましい生活習慣の形成」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①「早寝、早起き、朝ご飯」等の基本的な生活習慣の習慣化ができている児童を80%以上 ②「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上	①生活習慣チェックシートなどを活用し、睡眠や朝食喫食、テレビ視聴やゲームの時間設定の啓発を行う。また、学校だけでなくや学年通信等で基本的な生活習慣の習慣化について定期的に啓発する。 ②各学年の指導目標を表現できるよう意識して指導する。								柴村 (保健体育部部長)
	○体育的行事の充実 ・体育、健康、保健に係る教育の推進	○体力向上に関する子ども一人一人の学びの充実を大切にしようとする教員80%以上	・日々の体育の授業を中心として、大縄トライアルやスポーツフェスタなど体を動かすことの心地よさに触れさせる機会を設定し、体力向上の推進を図る。 ・計画的、定期的に体力向上に関する取り組みを実施し、学級指導に活用する。								柴村 (保健体育部部長)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○防災教育の充実	①子どもの生活アンケートの防災関連項目について、「わかる」「できる」「知っている」が80%以上。 ②水難危険箇所等の防災上重要な箇所の職員による把握が100%	・月に1回の緊急放送訓練の実施(児童向け) ・全校朝会での防災に関する講話(児童向け) ・佐賀豪雨に関する写真等の掲示 ・危険箇所の把握に関する研修(職員向け) ・危険箇所の実地確認(職員向け) ・会議資料等早めの配布をし、会議時間の短縮を図る。 ・事務職員の支援体制、校納金・服務関係帳簿の点検等を毎月末に行う。								松尾博 (防災教育担当)
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・会議資料等早めの配布をし、会議時間の短縮を図る。 ・事務職員の支援体制、校納金・服務関係帳簿の点検等を毎月末に行う。								教頭・事務長
	○教職員の働き方に対する意識改革を行い タイムマネジメント能力の育成を図る。	○タイムレコーダーを活用し教職員の勤怠管理を行い、会議や業務の効率化を進めながら前年度同月比-5%にする。	・月の前半の残業時間を伝え、月後半の見通しを持たせる。 ・毎月の「業務チェックシート」で勤務時間の課題を確認する。								教頭・事務長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎学級経営の充実	◎児童一人一人が期間、行事などの際に目標の実現を図る。	※(各学級の経営方針による)	※(各学級の経営方針による)							学級担任
○花まるタイムの工夫改善と定着	○花まるタイムの指導方法の改善と定着(地域との連携→郷土を誇りに思う心の育成)	○花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする児童と地域の方々80%以上。	・花まるタイムに関する職員研修の実施。 ・地域の方と児童の交流している姿をHPや掲示板を使って取り上げ、地域の方の花まるタイムへの意欲を上げる。 ・地域の方をGT活用(地域との連携)							中村 (官民一体型学校推進)

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育
----------------	--